



【永井坂にある永井博士から送られた桜の話】

(写真は永井記念館所蔵 HP より))

みなさんは、永井 隆博士を知っていますか？4年生以上の人達は、総合的な学習を通して分かっていることと思います。永井 隆博士は、浦上の地に生きたお医者さんです。「永井」という名前を聞いて、ぴんと来た人もいるかも知れませんね。そう、この城山小学校にある永井坂にその名前がついています。

永井 隆博士は、昭和7年から、長崎大学病院のレントゲン科の医師として活躍しました。レントゲン科は、仕事も多く、放射能の影響を受けて白血病という恐ろしい病気にかかる危険もありましたが、多くの人の命を救うために研究に打ち込みました。その結果、とうとう白血病にかかってしまったのです。しかし、博士は、どんなときにも明るく振るまい、患者の治療を一生懸命に行いました。そして、1945年、昭和20年、8月9日がやってきました。その日、病院のレントゲン室で研究をしていた博士は、被爆したのです。吹き飛ばされ、右の目の上と、耳の所をガラスで切った博士は、どうなったと思いますか？博士は、大量に出血していましたが、自分の治療は後回しにして、3時間近くも救護を求めてくる人々の治療をしました。次の日も次の日も患者の治療に走り回っていましたが、1946年7月、白血病と被爆の影響により寝込んでしまったのです。動くことができなくなった博士は、近所の人々の好意で、小さな住まいに住むことになりました。それが現在の如己堂です。山里小学校の近くに今でも残っています。博士は、体が動くことができなくなっても博士は人のために何かをしたいと考え、「指はまだ動く。」と、自分の体を使って原爆症の研究をしたり、本を書いて原爆の悲惨さや、平和の尊さを訴えました。

さて、その永井 隆博士の名前のついた坂が、なぜ城山小学校にあるのでしょうか。それは、永井坂の両方に咲く桜の木に秘密があります。先ほど、永井 隆博士は本を書いたと言いましたが、その本が売れたお金で1000本の桜の苗木を買い、草も木も生えないと言われた浦上の地を花でいっぱいにして欲しいと、永井 隆博士のご遺族の方が色々なところに寄贈してくださったのです。その中の100本を城山小学校に頂き、当時正門だった登り口と運動場に植えました。当時は、永井坂のほうに正門があったのだそうです。毎年、春になると満開の桜で美しい花のトンネルをつくり、みんなを楽しませてくれることから、永井坂と呼ばれるようになりました。残念ながら、1991年の台風によって大きな被害を受け、今植えてあるのは、あとからまた寄付していただいた苗木が大きくなったものです。

今はもう冬なので、桜の花は咲いていませんが、今日は、4年生がたくさんの花を持ってきてくれました。この花に、永井博士の心を感じて今日のお話を聞いてくれたらすてきだと思っています。4年生のみなさん、ありがとうございました。

永井坂の途中には、防空壕の後が2つあり、登り口付近には、5つの防空壕入口が残っています。ここでも、多くの方が命を落とされたと思いますので、ご冥福をお祈りしたいと思います。

最後に、永井博士が残した「如己愛人」、つまり周りの人も、自分と同じように愛するという言葉を伝えて終わりにしたいと思います。今ちょうど人権週間ですが、自分と同じように人を大切にすると、争いごとはなくなりますよね。